

日中語の授受補助動詞構文・移動補助動詞構文の対照研究

—恩恵性を中心に—

趙 蓉俊子

Abstract

This paper provides a contrastive analysis of the benefactive and motion auxiliary verb constructions of Japanese and Chinese. The investigation shows the following differences in the syntactic and semantic features of the auxiliary verb constructions in both languages. Comparing the benefactive auxiliary verb constructions of the two languages, we point out the following syntactic difference: possible intervening elements, the possibility of omission of the giver NP, a constraint on the view point of the subject, concordance of the spatial orientation of V1 and V2, and the possibility of an omission of V2. Semantically, the two languages differ in whether the benefactive auxiliary verb constructions can also imply mal-factive or self-benefactive meanings. Motion auxiliary verb constructions of Japanese and Chinese also exhibit distinction in the agreement of the subjects of the two component verbs, the aspect of the sentence, and the position of the subject. There is also a difference in the point of view of the sentence. The Japanese auxiliary verb *ageru*, 'to give,' is more grammaticalized as a benefactive marker compared to the Chinese equivalent *gei*, 'to give.'

キーワード……日中対照言語学 授受補助動詞構文 移動補助動詞構文 自己恩恵 補助動詞

1 はじめに

現代日本語には、例文 (1)(2) の「読んであげる」「歩いてくる」のような「動詞テ形—補助動詞」という形式を用いる構文がある。

(1) 娘に絵本を読んであげた。¹⁾

(2) 工場の塀に沿って、男がひとり歩いてくる。(『会いたくて』)

現代日本語と対照し、現代中国語にも例文 (3)(4) の“送给”「贈ってあげた」「打来」「かけてきた」のような「動詞—補助動詞」という形式を用いる構文がある。

- (3) 小李 送给 小王 一 本 书。
(李さん 贈るー与える 王さん 一 CL 本)
「李さんは王さんに本を一冊贈った」

- (4) 小张 给 我 打来 了 电话。
(張さん PREP 1SG かけるーくる 了 1 電話)
「王さんが私に電話をかけてきた」

本稿では、日本語の「読んであげる」「歩いてくる」及び中国語の“送给”「贈ってあげた」「打来」「かけてきた」のような2つの動詞の連続について、前の動詞が本動詞で、後の動詞が補助動詞で構成される文を補助動詞構文と定義する。さらに、空間的・時間的移動を表す動詞「来る」と「行く」を補助動詞として用いた形式を移動補助動詞と呼び、授受を表す動詞「あげる」「やる」「くれる」「もらう」を補助動詞として用いた形式を授受補助動詞と呼ぶ。

本稿では、日中語の授受補助動詞「V てあげる(やる)」構文、“V 给”構文及び、移動補助動詞「V てくる/いく」、「V 来/去」構文の相違点を対照する。2節では、日中語の授受補助動詞構文と移動補助動詞構文に関する先行研究を概観する。次に、3節では、日中語の授受補助動詞構文の特徴を文法及び意味の観点から対照する。4節は、日中語の移動補助動詞構文の形式・意味の相違点を対照する。最後に、5節では、結論をまとめる。

2 日中語の授受補助動詞構文と移動補助動詞構文に関する先行研究と問題点

本節では、日中語の授受補助動詞構文と移動補助動詞構文に関する先行研究を概観し、本論の立場を説明する。日本語の授受補助動詞・移動補助動詞に関する研究は盛んに行われており(益岡 (2017)、森田 (2002) などがある)、中国語の“V 给”“V 来”“V 去”構文に関する研究も少なくない(朱徳熙 (1979)、沈家煊 (1999)、範立珂 (2013)、王宜広 (2016) などがある)。

まず、三宅 (2015) は、補助動詞とは、「いる」等の特定の動詞が、他の動詞の「テ形」に後接し、意味を抽象化して、機能語的にふるまうようになったもののことを指し、「テ」と後接の動詞は完全に一語化しているわけではなく、「ている」のような「て」と後接動詞との構造体は、複雑述語ではあるが、複合動詞²⁾ではないとしている。本稿は、三宅 (2015) で述べている補助動詞の定義に従い、日本語の授受補助動詞「V てあげる(やる)」構文と中国語の授受補助動詞“V 给”構文及び、日本語の移動補助動詞「V てくる/ていく」構文と中国語の“V 来/去”構文を研究対象として考察を行う。益岡 (2017: 84) によれば、授受動詞構文の特徴は、授与物の移動が被授与者に恩恵をもたらす点にある。本稿は、先行研究を踏まえて形式と意味機能の観点から日本語の授受補助動詞構文の特徴や恩恵・非恩恵・自己恩恵を表す場合についてもう一度整理し、新しい観点から日中両言語の授受補助動詞構文の特徴や相違点を明らかにする。中

国語の授受補助動詞“V 給”構文の構造は主に2つの形式に分けられる。1つは、“給”が前置詞となり、Vの後ろに置かれる形である。もう1つは、“V 給”を1つのまとまりとして目的語がつく形である。例えば、沈家煊(1999)は、“V 給”構文はほとんど1つの複合動詞であるとしている。朱德熙(1979)では、中国語の“V 給”構文が成立するためには、 V_1 そのものが語彙的に授与の意味を含んでいなければならないと指摘している。

森田(2002: 238-243)では、日本語の移動補助動詞「V てくる」「V ていく」の意味機能を、「空間的移動」「時間的な状態継続」「時間的な状態変化」という3つに分ける。森田(2002)は、前項動詞の種類と意味特徴、及び「～てくる」「～ていく」全体の意味特徴と各意味特徴の関連を明らかにする。しかしながら、「時間的な状態変化」に関する解釈の中で、「外の世界」と「内の世界」などのような概念が出てくるが、このような概念についてどのように理解すべきなのかについてははっきりしていない。

王宜広(2016)によれば、中国語の“V 来”構文と“V 去”構文は空間移動と状態・所有権変化という2種類がある。範立珂(2013)によれば、“V 来/去”構文の前項動詞には、3つの制限があり、それぞれ(i) V_1 が必ず動作動詞(存在動詞“有”「ある/いる」、 “在”「ある/いる」、能願動詞“会”「できる」や心理動詞などではない)である。(ii) V_1 が使役性を持つ動詞である場合もある。(iii) V_1 は[+移動]という語彙の意味を備え、主体移動動詞“自位移”と対象移動動詞“使位移”に分けられる。問題点は、“了1”がなくても、 V_1 は“来/去”とくつついた時点で、完了を表せるようになるという指摘がいくつかあるが、筆者の内省によると、例えば、“那边走来一个人。”「あそこから一人が歩いてきている(歩いてきた)」という文の“V 来”は、完了と継続を表す場合の両方があると考えられ、結果を強調するより継続に注目したほうが適切である。しかしながら、“姐姐买来一台电视。”「姉はテレビを買ってきた」という文の“V 来”は、継続を表さず完了を表し、結果に注目する。よって、“V 来/去”構文”のアスペクトをまだ検討をする余地があると考えられる。

ここまで、日本語と中国語の授受補助動詞・移動補助動詞に関する主な先行研究を概観した。日本語と中国語の授受補助動詞・移動補助動詞に関する先行研究には以下のような問題点があると考えられる。

[1] 研究対象が授受補助動詞構文或いは移動補助動詞構文のどちらかに限られていて、両者に関する対照研究検討は数少ない。本稿では、授受補助動詞構文と移動補助動詞構文を研究対象とし、両言語の相違点を明らかにする。

[2] 日中両言語の授受補助動詞と移動補助動詞に関するこれまでの研究では、意味機能という観点、或いは形式の観点から、片方だけを研究してきたものは多く見られるものの、形式・意味上の観点から分析しているものは見られない。

3 日中語の授受補助動詞構文の対照

本節は日中語の授受補助動詞を形式・意味という観点から、両言語の相違点を明らかにするため、中国語の“V 给”構文と日本語の「V てあげる(やる)」構文を取り上げて考察する。

まず、形式の観点から、“V 给”構文と日本語の「V てあげる(やる)」構文の相違点を明らかにする。第一に、“V 给”構文においては、 V_1 と V_2 の間に他の文法要素が入ることはできる。例えば、例文 (5b) のように、名詞句が前項動詞“送”「送る」と“给”「与える」の間に介入しており、意味は“V 给”構文と同じであるものの、情報構造が異なる。(5a) では“她”「彼女」が旧情報を、“两块糖”「二粒の飴」が新情報それぞれになっているのに対し、(5b) では“两块糖”「二粒の飴」が旧情報を、“她”「彼女」が新情報をそれぞれ担っている。(本稿では、-挿入要素-を表す)

- (5) a. 我 送给 她 两 块 糖。 → b. 我 送-两块糖-给 她。
 (1SG 送る-与える 3SG 二 CL 飴) (1SG 送る-二粒の飴-与える 3SG)
 「私は彼女に二粒の飴を送ってあげた」 「私は二粒の飴を彼女に送ってあげる」

なお、例文 (6) のように、 V_1 と V_2 の間には構造助詞“的”、可能補語“得”や動態助詞“了”などは介入できない。

- (6) a. * 她 借-的-给 我一块钱。 b. * 她 借-得-给 我一块钱。 c. * 她 借-了-给 我一块钱。

一方、姫野 (2018: 5) は、「やっている」というような補助動詞の間には助詞が介入できる(「やって-は-いる)と指摘している。例えば、例文 (7a)(7b) のように、日本語の「V てあげる(やる)」構文は V_1 と V_2 の間に「は」のような助詞の介入が許可されるとしている。一方、中国語の“V 给”構文は名詞句が介入できるかどうか前項動詞の意味によって変わる。例文 (7c)(7d) の「借りる」「買う」は[+獲得]という意味要素を有する動詞であり、文全体は2つの出来事を表し、即ち V_1 と V_2 の間には時間的關係が継起する。また、[+作成]という意味要素を備える動詞を用いた例文 (7e) も同じく2つの出来事を表し、文が成立する。これに対し、[+授与]という意味要素を有する動詞を用いた例文 (7f)(7g) の「教える」「売る」は非文になる。それに、例文 (7h) の[+授与]という意味要素を備える動詞「贈る」は、 V_2 「あげる」と同じ方向性を持っているが、意味では重複が生じて非文になる。

- (7) a. 子供が何を言ってるか分からない時は、どう答えてあげますか？私は一生懸命聞いて-は-
あげるのですが分かりません。 (『Yahoo!知恵袋』)
 b. これを最後に、救いの手を伸べて-は-やるが、それはおまえの母親を思えばこそだ。

(『ザ・ベスト・オブ・ジョン・コリア』)

- c. 私は金を借りて-彼に-あげる。 d. おばあさんが飴を買って-僕に-くれた。
 e. 僕はマフラーを編んで-彼女に-やった。 f. * 先生は本を教えて-君に-あげる。
 g. * 彼女はこの本を売って-私に-くれる。 h. * セーターを一枚贈って-彼女に-あげる。

第二に、被授与者を省略することが可能であるかどうかに関し、“V 給”構文と「V てあげる(やる)」構文の差異も見られる。中国語の“V 給”構文は例文 (8)(9) で示すように、文法上で被授与者を省略することはできない。

- (8) a. 我 卖给 小李 四 本 书。 → b. * 我 卖给 四 本 书。
 (1SG 売る-与える 李さん 四 CL 本) (1SG 売る-与える 四 CL 本)
 「私が彼に四冊の本を売ってあげた」 「私が(誰かに)四冊の本を売った」

- (9) a. 小王 买给 我 一 束 花。 → b. * 小王 买给 一 束 花。
 (王さん 買う-与える 1SG 一 CL 花) (王さん 買う-与える 一 CL 花)
 「王さんが私に花を買った」 「王さんが(誰かに)花を買った」

しかし、日本語の「V てあげる(やる)」構文は、例文 (10)(11) のように、被授与者を省略しても文の意味に大きな影響を及ぼさない。例えば、例文 (10a)(11a) の被授与者は「次郎」、「彼」であることが明確だが、例文 (10b)(11b) は授与者「太郎」、「僕」が行う行為が有益であると話し手が考える場合にも適格である。

- (10) a. 太郎が次郎に料理を作ってあげた。 → b. 太郎が料理を作ってあげた。
 (11) a. 僕が彼にカバンを贈ってあげた。 → b. 僕がカバンを贈ってあげた。

第三に、山田 (2004: 107) では、「与え手が主語になって、話し手から聞き手や第三者へ、あるいは聞き手から第三者へというように、話し手から見てウチからソトへの「物」や所有権などの移動を表すときには「あげる」を使う。逆にソトからウチへの移動には「くれる」を使う」と指摘しているが、中国語の“V 給”構文の被授与者は人称によって動詞を選択することはなく、即ち人称制限を受けていない。言い換えれば、 V_2 の方向性は、聞き手や話し手に関係がなく、授与者から被授与者への働きかけが一方的である。例えば、例文 (12) のように、日本語の「V てあげる(やる)」は話し手側から他者へ恩恵行為を行い、主語(被授与者)に視点の制約がある。これに対し、例文 (13) のように、中国語の“V 給”は主語(授与者)に視点の制約がないと考えられる。

(12) a.*小林さんは私にノートを貸してあげた。→ b. 私は小林さんにノートを貸してあげた。

(13) a. 小林 借給 我 笔记。→ b. 我 借給 小林 笔记。

(小林さん 貸す-与える 1SG ノート) (1SG 貸す-与える 小林さん ノート)

「小林さんは私にノートを貸してくれた」 「私は小林さんにノートを貸してあげた」

第四に、中国語の“V 给”における前項動詞が後項動詞“给”と共起できないタイプ³⁾について、 V_1 の空間的方向性は V_2 “给”と一致しないと矛盾が出てくる。例えば、例文 (14a) は、 V_1 “抢”「奪う」(外→内)と V_2 “给”「与える」(内→外)は物の移動方向が逆であり、文が成り立たない。例文 (15a) の“输”「負ける」にも空間的方向性があり、日本チームは損害を受ける側で、韓国チームは利益を受ける側である。それに対し、例文 (15b) は非文法的である。なお、例文 (16a) の“嫁”「嫁ぐ」は V_2 “给”「与える」との空間的方向性が一致するのに対し、例文 (16b) の“娶给”「(嫁を)もらう」⁴⁾は容認度が低い。一方、例文 (17)(18) のように、日本語の「V てあげる(やる)」構文は、 V_1 が「奪う」「盗む」という動作の場合、「V てあげる(やる)」構文は成立し、 V_1 と V_2 の間の空間的方向性とは関連性がない。

(14) a.* 小张 抢给 小刘 一 本书。

(張さん 奪う-与える 劉さん 一 CL 本)

「張さんは(誰かの)本を一冊奪って劉さんにあげた」

b. 小张 抢 了 小刘 一 本书。

(張さん 奪う 了 1 劉さん 一 CL 本)

「張さんは劉さんのところから本を一冊奪った」

(15) a. 日本队 输给 韩国队。→ b.* 日本队 赢给 韩国队。

(日本チーム 負ける-与える 韓国チーム) (日本チーム 勝つ-与える 韓国チーム)

「日本チームは韓国チームに負けた」 「日本チームは韓国チームに勝った」

(16) a. 小王 嫁给 小刘。→ b.* 小刘 娶给 小王。

(王さん 嫁ぐ-与える 劉さん)

(劉さん (嫁を)もらう-与える 王さん)

「王さんは劉さんに嫁いだ」

「劉さんは王さんを嫁にもらった」

(17) 「こうして、わたしがあなたの熱を奪ってあげるのはいいい方法だわ」

(18) こうなったら死ぬ気である人に食らいついて、やることを横から見て、ひとつでも多く盗

んでやろうと思っています。

(『きみのためにできること』)

第五に、日中語の授受補助動詞構文では、 V_2 を省略して文の意味に影響がある場合とない場合の両方がある。例えば、日本語の「 V てあげる(やる)」構文の場合、例文(19a)(19b)の V_1 は作成動詞と入手動詞であるということを前提として、 V_2 を省略しても文全体の意味に影響を及ぼさないと考えられる。しかし、例文(20)の「行く」という動詞の場合、 V_2 を省略すると文が成り立たない。

- (19) a. 私が君にプレゼントを {買った/買ってあげた}。
 b. 私は王さんに絵を {描いた/描いてあげた}。
 (20) a. 鈴木は行きたがらないようだが、君は彼と行ってあげたら?
 b. * 鈴木は行きたがらないようだが、君は彼に行ったら?

一方、中国語の“ V 給”構文では、 V_2 を省略することにより、3つのパターンがある。それぞれ文の意味が通じない場合、文の意味が変わらない場合、文の意味が変わる場合である。具体的に1つは、例えば、例文(21)(22)の作成動詞“写”「書く」や“做”「作る」のように、 V_2 を省略することで文の意味は通じなくなる。

- (21) a. 我 写给 小刘 一首 诗。→ b. * 我 写 小刘 一首 诗。
 (1SG 書く-与える 劉さん 一 CL 詩) (1SG 書く 劉さん 一 CL 詩)
 「私は劉さんに一編の詩を書いてあげた」 「私は劉さんの一編の詩を書く」
 (22) a. 妈妈 做给 我 一件 裙子。→ b. * 妈妈 做 我 一件 裙子。
 (母 作る-与える 1SG 一 CL スカート) (母 作る 1SG 一 CL スカート)
 「母は私に一枚のスカートを作ってくれた」 「母は私のスカートを作る」

もう1つは、例文(23)のような“还”「返す」という動詞を用いた文では、 V_2 を省略しても文の意味が変わらない。それ以外、例えば“付”「支払う」、「賞」“(賞を)与える”、“赔”「賠償する」、「退”「戻す」、「补”「補う」、「拨”「回す」、「贈”「贈る」、「递”「手渡す」、「送”「送る」などの動詞も V_2 を省略しても文の意味が変わらない。このような文の特徴として、 V_1 と V_2 は動作の継起が同時に起こり、授与物の移動と到着は同一である。

- (23) a. 小林 还给 小张 十 块。 → b. 小林 还 小张 十 块。
 (小林さん 返す-与える 張さん 十 元) (小林さん 返す 張さん 十 元)

「小林さんは張さんに十元を返した」

「小林さんは張さんに十元を返した」

最後の1つは、例文 (24)(25) のように、 V_2 を除くと文の意味が変わる場合もある。例えば、例文 (24a) の O_i は“我”「私」であり、 O_d は“椅子”「椅子」である。それに対し、例文 (24b) の O_i “我”「私」は被授与者(受け手)であり、即ち V_2 “給”を付け加えることにより、形式・意味上において O_i の役割が変わる。また、例文 (25a) のように、“V 給”構文は V_1 が“借”「貸す/借りる」という両義動詞である場合、 V_2 “給”を付けることにより、例文 (25b) のように「貸す」を表す意味にとどまる。それに対し、日本語の授受補助動詞構文について、例文 (19) のように、 V_1 が作成・入手動詞である場合は、 V_2 を除いても文の意味が変わらない。従って、日本語の授受補助動詞構文は中国語の“V 給”構文より恩恵を表す形式として完成度が高く、 V_2 “給”より V_2 「あげる(やる)」のほうが補助動詞としての動詞性が強く、即ち動詞としての性質が弱いと考えられる。

(24) a. 小王 卖 了 我 一 把 椅子。⁵⁾

(王さん 売る 了 1 1SG 一 CL 椅子)

「王さんが私に椅子を1脚売った(王さんが私の椅子を1脚売った)」

b. 小王 卖给 我 一 把 椅子。

(王さん 売る-与える 1SG 一 CL 椅子)

「王さんが私に椅子を1脚売った」

(25) a. 小张 借 了 小李 十 块 钱。

(張さん 借りる 了 1 李さん 十 CL お金)

「張さんは李さんから十元を借りた/張さんは李さんに十元を貸した」

b. 小赵 借给 小李 十 块 钱。

(張さん 貸す-与える 李さん 十 CL お金)

「張さんは李さんに十元を貸した」

続いて、意味の観点から“V 給”構文と日本語の「V てあげる(やる)」構文の相違点を解明する。第一に、日中語の授受補助動詞構文は、主に人間同士の行為を表す文であるため、授与者と被授与者は有情物であるが、中国語の“V 給”構文では、例文 (26) のように、被授与者はメトニミーのような組織“市政府”「市役所」、地名“上海”「上海」などにも用いられる。これに対し、日本語の「V てあげる(やる)」構文は、例文 (27) の被授与者が組織や地名である場

合、成り立たない。一方、例文 (28a)(28b) のような被授与者が具象名詞(サボテン、人参)である場合もあり、例文 (28c) のように体の一部分が受け手となる場合もある。なお、例文 (28d) の「微分」という抽象名詞の場合にも適切である。即ち、被授与者は非人間名詞である。

(26) a. 市政府 捐给 孤儿院 许多 资金。
 (市役所 寄付する-与える 孤儿院 たくさん 資金)
 「市役所は孤儿院にたくさんの資金を寄付した」

b. 他 把 情報 传给 上海 一 份。
 (3SG PREP 情報 伝える-与える 上海 一 CL)
 「彼が情報を上海の同僚に伝えた」

(27) a. *市役所は孤儿院に本をたくさん寄付してあげた。→b. * 彼が情報を上海に伝えてあげた。

(28) a. 日照りのいい日には常にサボテンを庭に出してあげる。

b. (料理番組で)人参を細かく切ってあげてください。

c. 額を冷ましてあげると眩暈が消える。

d. これは合成関数の微分になるので $2x$ の微分である 2 をかけてあげていると見ればすぐわかる。

第二に、日本語の授受補助動詞「V てあげる(やる)」構文の意味機能の特徴は、恩恵、非恩恵及び自己恩恵を表せることである。まず、恩恵を表す場合に関して、「V てあげる(やる)」の待遇的なバリエーション⁹⁾は、 V_1 を含んだ出来事が誰かのため(恩恵)になっていることを表す振る舞いである。例えば、例文 (29) といった事態が当事者(困っている人たち)にとって好ましい物、或いは恩恵をもたらすものでなければならない。即ち、授与物は被授与者にとって好ましいものである。一方、中国語の“V 给”構文では、例文 (30) のように、授与物は主に被授与者にとって中立的な物である。

(29) 困っている人たちを何とか助けてあげたい。

(30) 小王 卖给 我 一 个 碗。
 (王先生 売る-与える 1SG 一 CL お碗)
 「王先生は私に1つのお碗を売ってくれた」

次に、非恩恵を表す場合に関して、授受補助動詞構文には主に恩恵の意味が伴い、話し手、聞き手や被授与者などが何らかの利益を被るが、例文 (31) のような文にはそのような恩恵や

利益が見られず、「合格してやる」は話し手の強い意志を表す。益岡 (2001) によれば、「V てもらう」構文は受動構文・使役構文と対立関係を構成し、これらの構文との間で役割を分担しているのに対し、「V てあげる(やる)」「V てくれる」構文は対立する構文を持たないため、非恩恵的な意味の領域への拡張を阻止する力が働かない。一方、中国語の“V 给”構文では、非恩恵的な意味を表さない。

(31) 今度は絶対合格してやるぞ!

「V てあげる(やる)」構文は授与者と被授与者の間に「恩恵」や「利益」関係があるが、恩恵を表す機能を持つ一方で、非恩恵的な意味を表すこともある。日本語記述文法研究会 (2009: 129) では、非恩恵的な「V てやる」には例文 (32a) のように非恩恵的な影響を与える聞き手が想定できる機能と、そのような影響を与える聞き手が想定されない機能(例文 (32b)) とがある。

- (32) a. この野郎、思い知らせてやる。 (日本語記述文法研究会 2009: 129 例(1))
b. いつか偉くなつてやる! (日本語記述文法研究会 2009: 129 例(2))

最後に、自己恩恵とは、例文 (33) のように、恩恵行為の被授与者がいなく、自分の体の一部分が授与者となって行為を行うのを表すものである。例文 (34) は説明言語の「V てあげる」構文であり、村田 (1994: 80) によれば、例文 (35a) も誰かのために「塩を入れる」のではなく、ただ料理を作るために、鍋に塩を入れるだけのことであり、例文 (35b) も似た意味機能である。一方、中国語では、自己恩恵を表す場合は“V 给”構文で表さない。

- (33) a. 「1、2、トントン」手刀のようにして両手で背中から腰へたたいてあげましょう。
『生きがづくり健康づくりの明老ゲーム集』
b. 痛みがある部分を温めてあげて軽く揉み解してあげてください。 『Yahoo!知恵袋』
(34) 鮭は三枚におろし、骨を抜いてやります。 (井島 1999: 32 例(1e))
(35) a. (料理番組で)お肉が煮えたらお塩をいれてあげる。 (村田 1994: 80)
b. (化粧品の対面販売で)おやすみまえに、このナイトクリームをお顔全体につけてあげてください。 (村田 1994: 81)

本節では、日中語の授与補助動詞「V てあげる(やる)」構文と“V 给”構文を意味と形式の観点から対照した。表 1 に、日本語の「V てあげる(やる)」構文と中国語の“V 给”構文を意味と形式の観点からまとめる。(表 1 参照)

表1. 日本語の「Vてあげる(やる)」構文と中国語の“V给”構文

		日本語の「Vてあげる(やる)」構文	中国語の“V给”構文
形式	介入可能要素	助詞	名詞句
	被授与者の省略	あり	なし
	主語に視点の制約	あり	なし
	V ₁ とV ₂ の空間的方向性	必ずしも一致しない	必ず一致する
	V ₂ は省略可能か	V ₁ が作成・入手動詞である場合、V ₂ を省略しても文の意味が変わらない	①作成動詞の場合、V ₂ を省略すると文の意味は通じない ②“还”「返す」という動詞の場合、V ₂ を省略しても文の意味が変わらない③両義動詞の場合、V ₂ を除くと文の意味が変わる。
意味	被授与者が非情物である場合	非人間名詞	人間がいる場所に限らない
	非恩恵を表す場合	①影響を与える受け手が想定できる②影響を与える受け手が想定されない	なし
	恩恵を表す場合	授与物が「好ましい物」	授与物が中立的な物
	自己恩恵を表す場合	あり	なし

(筆者作成)

4 日中語の移動補助動詞構文の対照

本節では、日中語の移動補助動詞構文の相違点を対照する。日本語の「Vてくる」「Vていく」構文と中国語の“V来”“V去”構文を形式と意味の観点から対照し、両言語の移動補助動詞構文の相違点を明らかにする。

まず、形式の観点から見ると、第一に、V₁とV₂は主語が一致するかどうかという問題について、日本語の「Vてくる」「Vていく」構文のV₁とV₂は松本(1998: 72)が述べている「主語一致の原則」に従う。一方、中国語の“V来”“V去”構文は、V₁とV₂の主語が一致する場合と一致

しない場合がある。例えば、例文 (36) のV₁ “端”「(両手で平らに)持つ」の主語は「ウェイター」であるが、“来”「くる」という動作の主語は「ウェイター」或いは「ウェイター」と「料理」という2つの場合がある。なお、興味深い点として、例文 (37) のV₁ “寄”「送る」という動作の主語は「彼」であり、“来”「くる」という動作の主語は「手紙」である。なお、例文 (38a) のように、V₂ “来”「くる」の主語は「電話」という物体であり、例文 (38b) のような抽象名詞「教訓」はV₂ “来”「くる」の主語になれる。よって、V₂ “来”の虚化程度がその後ろにくる目的語とV₁の性質に関わっていて、例文 (36)-(37)-(38a)-(38b) の順に、“来”の後ろにくる目的語が“来”の主語になれる確実性が高くなるといえよう。

(36) 服务员 端来 一 盘 菜。
 (ウェイター 出す—くる — CL 料理)
 「ウェイターが料理を出してきた(出してくている)」

(37) 他 给 我 妹妹 寄来 一 封 信。
 (3SG PREP 1SG 妹 送る—くる — CL 手紙)
 「彼は私の妹に手紙を一通送って、手紙が届いた」

(38) a. 小王 给 我 打来 一 个 电话。
 (王さん PREP 1SG かける—くる — CL 電話)
 「王さんが私に電話をかけてきた」

b. 我 损失 了 50 万, 买来 一 个 大 教訓。
 (1SG 失う 了 1 50 万 買う—くる — CL 大きい 教訓)
 「私は50万を失ってしまって、大きな教訓を得た」

第二に、文のアスペクトについて、住田 (2011: 93) によれば、日本語「～てくる」のタ形「～てきた」は受動態のレル・ラレル文と異なり、V₁の表す行為は必ずしも完了せず、未完了になる場合もある。例えば、例文 (39a)(39b) のような能動態、受動態の場合は、「野良犬が僕の腕に咬みついて野良犬の牙が腕の皮膚に食い込んでいる」といった状態に至っていると考えられるが、例文 (39c) のように「Vてくる」構文は、必ずしもそのような状態に至っているとは限らないのである。なお、例文 (40a)(40b) のように、能動態や受動態を用いた文では「かろうじてかわした」という身体的接触がなかったことを含意する文を後続させると不自然になり、「Vてくる」構文のような行為が未完了になる場合もある。この「Vてくる」構文の持つ未完了性という機能について、V₁は主体移動動詞の下位分類、身体(部位)移動動詞の意味機能に一致し、

即ち、身体(部位)移動動詞は動作主と被動者間の接触を語彙的に含んでいる。

(39) a. 野良犬が僕に咬みついた。 (住田 2011: 93 例(94))

b. 野良犬が僕に咬みつかれた。 c. 野良犬が僕に咬みついてきた。

(40) a. *野良犬が僕に咬みついたけど、僕はかろうじてかわした。 (住田 2011: 93 例(95))

b. *僕は野良犬に咬みつかれたけど、かろうじてかわした。

c. 野良犬が僕に咬みついてきたけど、僕はかろうじてかわした。

一方、中国語の“V 来”構文のAspectについて、“了 1”を付加しなくても完了を表せる場合があるため、例文 (41a) は非文であり、前節は「王さんと呼んできた」の意味合いを含んでいるが、後節との矛盾が出てくる。なお、例文 (41b) の“V 来”は、完了を表す場合と未完了(進行中)を表す場合の両方があると考えられ、結果状態を強調するより進行に注目したほうが適切である。

(41)a.* 我 喊来 小王, 小王 没 来。→b. 那边 走来 一 个人。

(1SG 呼ぶ—くる 王さん 王さん NEG くる) (あそこ 歩く—くる 一 CL 人)

「王さんと呼んだが、王さんが来なかった」「あそこから一人が歩いてきている(歩いてきた)」

第三に、中国語の“V 来”構文は、動作主が文全体の目的語の位置に置かれる。宋玉柱 (1991)によれば、例文 (42a)(43a) のような文を“施事后置”⁷⁾「動作主を後に置く」文と呼び、例文 (42)の場所名詞「あそこ」は文全体の主語の位置に立ち、「一人」は動作主であり、文全体の目的語の位置に置かれる。(一般的な語順は例文 (42b)(43b) のようになる)一方、日本語の動作主は文全体の目的語の位置に置くことはできない。

(42) a. 那边 走来 一 个人。 → b. 一 个人 从 那边 走来。

(あそこ 歩く—くる 一 CL 人) (一 CL 人 PREP あそこ 歩く—くる)

「あそこから一人が歩いてきた(てきている)」 「一人があそこから歩いてきた(てきている)」

(43) a. 远处 传来 一 阵 歌声。

(遠いところ 伝わる—くる 一 CL 歌声)

「遠いところからひとしきり歌声が伝わってきた(伝わってきている)」

b. 一 阵 歌声 从 远处 传来。

(一 CL 歌声 PREP 遠いところ 伝わる一くる)

「ひとしきり歌声が遠いところから伝わってきた(伝わってきている)」

第四に、日本語の「段々暖かくなってきた」という時間推移一状態変化を中国語では過程と結果という観点から捉えることができる。例えば、例文 (35a) は過去の時点から発話時点までの過程を強調するのに対し、例文 (35b) は発話時点で「涼しくなった」という結果に注目する。

(35) a. 气温 渐渐 暖起来 了。→b. 天气 渐渐 凉上来 了。
(气温 段々 暖かい一起こる一くる 了 1+2) (天气 段々 寒い一起こる一くる 了 1+2)
「日ごとに涼しくなってきた」 「日ごとに涼しくなった」

第五に、目的語が目的地である場合、“V 来”構造は、成り立たないと考えられる。例えば、例文 (36a) の“*回来中国”“中国に帰ってきた”は成立せず、例文 (36b) のような「V₁—目的地—“来”」という形式で用いる。なお、“*送来教室”“教室に送ってきた”、“*搬来楼上”“階上に運んできた”、“*进来屋里”“部屋の中に入ってきた”、“*下来地面”“地面に下りてきた”、“*端来桌上”“机の上に持ってきた”なども成立しない。一方、日本語の「V てくる」構文の目的語が目的地である場合は成立する。

(36) * a. 小王 终于 回来 中国 了。→b. 小王 终于 回 中国 来 了。
(王さん ようやく 帰る一くる 中国 了 1+2) (王さん ようやく 帰る 中国 くる 了 1+2)
「王さんがようやく中国に帰ってきた」 「王さんがようやく中国に帰ってきた」

第六に、視点の相違点について、中国語の“V 来”は“借来”「借りてくる」「买来”「買ってくる」という2つの動作が継起的に行う場合(順次性)が多いと見られる一方で、例文 (37a)(38a) の「見る」「聞く」は先に行ってから「くる」という移動を行うが、対応する中国語の表現は“V 来”ではない場合がある。なぜかという点、「V てくる」も“V 来”も話し手のいる場所に視点を置くが、日本語の場合は、話し手がいるところに視点が置かれるため、移動の最終的な到達点が話し手のいる場所であれば、その往復の移動を一つの過程と見なすのに対し、中国語では最初に行う移動動作に視点が置かれ、一方向的な移動動作である。例えば、例文 (37b)(38b) のような“去 V”「～しに行く」もしくは「行ってから何かをする」という連動文で表す場合もあり、例文 (39a)(39b) のように、“研讨会”“セミナー”と“校门口”“学校の正門」という客観的な事物に視点が置かれる。

(37) a. 今日は何の映画を見てきたの? → (38) a. ちょっと番号を聞いてくる。

- b. 今天 去 看 什么 电影 了? → b. 我 去 问 一下 号码。
 (今日 行く 見る 何 映画 了 1+2) (1SG 行く 聞く ちょっと 番号)
 「今日は何の映画を見てきたの」 「番号を聞いてくる」

- (39) a. 研讨会 迎来 很多 学者。 → b. 校 门口 开来 一 辆 车。
 (セミナー 迎える一くる たくさん 学者)(学校 正門 運転する一くる 一 CL 車)
 「セミナーはたくさんの学者を迎えてきた」「学校の正門の前、車が運転してきている」
 (範立珂 2012: 106)

次に、日本語の「Vてくる/ていく」構文と中国語の“V来”構文における前項動詞の特徴や構文の意味機能を対照し、日中両言語の移動補助動詞「Vてくる/ていく」構文と“V来/去”構文を以下の表2でまとめる。(表2参照)

表 2. 日本語の「Vてくる/ていく」構文と中国語の“V来/去”構文の対照

どんな観点から		日本語の「Vてくる/ていく」 構文	中国語の“V来/去”構文
形式	V ₁ とV ₂ の主語は一致するの か	一致する	一致する場合と一致しない場合がある
	文のアスペクト	V ₁ が身体(部位)移動動詞である 場合、文が未完了を表せる	“了1”を付加しなくても文が完了 を表せる場合と、継続を表せる場 合がある
	動作主の位置	主語の位置に置かれる	主語の位置にも目的語の位置にも 置かれることができる
	時間推移を表す場 合	状態変化	“V起来”文は過程と結果という 観点から捉えられる
	目的語が目的地で ある場合	文が成立する	文が成立しない
	V ₁ が対象移動動詞 である場合	V ₁ が三項を取る他動詞であ る	V ₁ が使役性を備える動詞である
意味	視点	話し手がいるところに視点 が置かれる	最初に行う移動動作或いは客観的 な事物に視点が置かれる

(筆者作成)

5 結論

本稿では、日中語の授受補助動詞構文及び移動補助動詞構文の相違点を、形式と意味の2つの側面から検討した。両言語を対照したところ、以下のような相違点が明らかになった。

最初に、日中語の授受補助動詞構文を形式の観点から見ると、日本語の「V てあげる(やる)」構文では助詞という文法要素が介入でき、被授与者の省略は可能であり、主語に視点の制約を受ける。また、 V_1 と V_2 は方向性が一致しなくても差し支えない。それに、 V_1 が作成・入手動詞である場合、 V_2 を省略しても文の意味が変わらない。一方、中国語の“V 给”構文では名詞句という文法要素が介入でき、受け手の省略はできず、主語に視点の制約を受けない。なお、 V_1 と V_2 は方向性が必ず一致する。それに、 V_2 を省略することにより、3つのパターンがある。それぞれ文の意味が通じない場合、文の意味が変わらない場合、そして文の意味が変化する場合である。意味の観点から見ると、日本語の「V てあげる(やる)」構文は被授与者が非情物である場合、その非情物は抽象名詞(微分)でも具象名詞(植物、野菜、体の一部分など)でもよい。また、非恩恵を表す場合は、影響を与える被授与者が想定できる場合と想定されない場合の両方がある。恩恵を表す場合、授与物は「好ましい物」である。自己恩恵という特殊な場合もある。これに対し、中国語の“V 给”構文は被授与者が非情物である場合、その非情物は抽象名詞(地名、組織など)でもよい。なお、非恩恵を表す場合は存在せず、恩恵を表す場合、授与される対象は中立的な物である。

続いて、日中両言語の移動補助動詞構文の形式・意味上の相違点に関しては、日本語の「V てくる/ていく」構文は V_1 と V_2 の主語が一致し、 V_1 が身体(部位)移動動詞である場合、文のアスペクトは未完了である。動作主は主語の位置に置かれ、話し手がいるところに視点が置かれる。一方、中国語の“V 来/去”構文は V_1 と V_2 の主語が一致する場合と一致しない場合があり、“了1”を付加しなくても文が完了を表す。動作主は主語或いは目的語の位置に置かれることができ、最初に行う移動動作或いは客観的な事物に視点が置かれる。

<注>

- 1) 本稿における出典を明記していない例文は筆者による作例である。
- 2) 三宅 (2015: 3) によれば、益岡・田窪 (1992: 16) は「複合動詞には、「持ち上げる」のように前項に連用形が現れるものと、「持って来る」のようにテ形が現れる物がある。前者を「連用形複合動詞」、後者を「テ形複合動詞」と呼ぶ」としているが、補助動詞を複合動詞の下位分類とするのは妥当ではなく、音韻的、形態・統語的特徴から補助動詞の機能語化(完全に一体化しているわけではない)を検証しているという。
- 3) “V 给”構文における V_1 は V_2 と共起できるかどうかについては、後ろにある目的語の音節の数にも関連している。 V_1 が2音節動詞である場合、例えば、“她把钱退还给张三”「彼女がお金を张三に返してやった」の中で、“V 给”の後ろの名詞も2音節であり、 V_2 が省略されても文が成立する。もし“V 给”の後

ろの名詞が1音節である場合、例えば、“她把钱退还给他”はやや不自然になり、理由として、“V给”の後ろの休止がなくなって、「頭が重く足元が軽い」といった感じが出てくる。

- 4) CCLで“娶给”「(嫁を)もらう」を検索すると、2例しか出てこない。严歌苓の小説『扶桑』からの例文“你婆婆是把你娶给她自己的”あんたの姑は自分のためにあなたを嫁にもらったよがあるが、生産性が極めて低いと見られる。
- 5) 例文(24a)の意味や生産性について、筆者が2019年9月15日に中国語母語話者32名を対象にしてインタビューによる容認度調査をした結果、32人が適格な文と判断した。その中で、25人は「王さんが私に椅子を1脚売った」という意味を指し、5人が「王さんが私の椅子を1脚売った」と判断し、残りの2人が判断しにくいという結果になった。なお、例文(62b)の“了1”をつけるかどうかという問題も文の意味や生産性に影響を及ぼす。
- 6) 「Vてあげる」「Vてさしあげる」は「Vてやる」の謙譲語であり、日本語記述文法研究会(2009:126)では、「てあげる」には恩恵の受け手を低く待遇する「てやる」、高く待遇する「てさしあげる」という形がある」と指摘している。本論文では、授受補助動詞の待遇表現には詳しく言及しない。
- 7) 宋玉柱(1991)は、“施事后置”「動作主を後に置く」には3つのタイプがあり、それぞれ“供动型”(例えば、“一锅饭吃八个人”“一つの鍋を八人が食べる”)、“被动型”(例えば、“乌云笼罩着海洋”“雲が海をすっぽり包み込んでいる”)、“从动型”(例えば、“几声汽笛响过海面”“「ポー」と汽笛が海面から鳴った”)であるとされている。

<引用文献>

- 井島 正博(1999)「魚は三枚におろしてあげます—<配慮・気配り>を表わすテヤル・テアグル—」『日本語学』18(12).明治書院.32-34.
- 益岡 隆志・田窪 行則(1992)『基礎的日本語—改訂版—』くろしお出版.
- 益岡 隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30(5).26-32.
- 益岡 隆志(2017)「日本語恩恵構文の意味の広がり」と構文の関係性」天野みどり・早瀬尚子(編)『構文の意味と広がり』くろしお出版.79-98.
- 住田 哲郎(2011)『移動動詞「来る」の文法化とヴォイス機能』神戸大学博士学位論文.
- 日本語記述文法研究会(編)(2009)『現代日本語文法2 第3部格と構文 第4部ヴォイス』くろしお出版.
- 姫野 昌子(2018)『新版 複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房.
- 松本 曜(1998)「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」『言語研究』114号.37-83.
- 三宅 知宏(2015)「日本語の「補助動詞」について」『鶴見日本文学』(19).1-20.
- 村田 美穂子(1994)「やる・してやる」と「あげる・してあげる」『国文学と鑑賞』至文堂(編)59(7).77-84.
- 森田 良行(2002)『日本語文法の発想』ひつじ書房.
- 山田 敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版.
- 王 宜広(2016)《现代汉语动趋式的语义框架及其扩展路径研究》(『現代中国語動趨式の語彙構造及びその拡張用法に関する研究』)中国社会科学出版社.
- 朱 德熙(1979)《与动词“给”相关的句法问题》(「動詞“给”に関する統語論的問題」)《方言》第2期.81-87.

沈 家煊 (1999) 《“在”字句和“给”字句》(「“在”構文と“给”構文について」)《中国语文》第2期.94-102.

宋 玉柱 (1991) 《现代汉语特殊句式》(『現代中国語特殊な文構造』) 山西教育出版社.

範 立珂 (2012) 《“V来”和“V到”的替换条件及认知动因》(「“V来”と“V到”との置き換え条件及び形成」)《汉语学习》第1期.104-112.

範 立珂 (2013) 《位移事件的表达方式研究》(『移動表現に関する研究』) 上海外国语大学博士学位論文.

<略語一覧>

CL: 助数詞 O_i : 間接目的語 O_d : 直接目的語 PREP: 前置詞 V: 動詞 V_1 : 授受・移動補助動詞構文の前項動詞 V_2 : 授受・移動補助動詞構文の後項動詞 1SG: 一人称単数 3SG: 三人称単数 了1: 完了助詞(動詞の後に置き、動作行為の完成或いは実現を表す) 了2: 文末助詞(事柄の完成や新しい事態の発生を確認する働きをする) 了1+2: 完了助詞、文末助詞(動詞或いは動詞フレーズが文末にくる場合)

<例文出典>

BBCWJ 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 <http://www.kotonoha.gr.jp>

CCL <北京大学汉语语言学研究中心语料库> (『北京大学中国語言語学研究中心データベース』) <http://ccl.pku.edu.cn>

付記 : 本稿は筆者が2020年に新潟大学に提出した修士論文の一部、および第81回新潟大学言語研究会(2019年11月)に発表した口頭発表の内容に基づいている。

主指導教員 (江畑冬生准教授)、副指導教員 (三ッ井正孝准教授・干野真一准教授)